



地球暮らし

地球温暖化防止と
環境共生住宅を考える

「人類最大の脅威」克服に向け世界が再出発

みなさんこんにちは、さつまホームの瀧川です。秋を飛び越して、一気に寒くなってきました。このまま日本の気候も、春・秋の「ちょうどいい」季節を素通りして、極端に変化するだけのうら寂しいものになっていくのでしょうか…。先月、ASEANの首脳会議では気候変動・地球温暖化問題を議論し、「環境維持に関するASEAN宣言」を採択しました。そして今月、「ポスト京都議定書」に向けて「国連気候変動枠組み条約第13回締約国会議(COP13)」が開かれました。詳しくは本文をどうぞ。



ポスト京都議定書～温暖化防止への新たな枠組みを～

ASEANから初の環境宣言

東南アジア諸国連合(ASEAN)は11/20にシンガポールで開いた首脳会議で気候変動・地球温暖化問題を議論し、「環境維持に関するASEAN宣言」を採択しました。森林面積拡大に大きな数値目標を盛り込むなどして、地球温暖化問題に対してASEANが積極的に取り組んでいく姿勢を示しました。「環境維持に関するASEAN宣言」は、2020年までに地域内の少なくとも森林面積1000万ヘクタールを拡大するという目標達成へ共同で努力することで合意しました。

ASEANが気候変動に関する宣言を出すのは初めてです。首脳会議はあわせて、12月に開催される国連気候変動枠組み条約第13回締約国会議(COP13)などに向け、ASEANの意思を示す宣言も採択しました。

そのほか、太陽、水



ASEAN加盟10カ国の首脳

力、風力、潮力、バイオマス、バイオ燃料、地熱など再生可能な代替エネルギーの利用促進に向けての具体的方策策定と、情報共有や能力構築を通じ、主要分野でエネルギー利用効率の向上などに取り組んでいくとしました。

締約国会議に向けた宣言では、気候変動が、持続可能な発展や途上国の貧しい人々に対して「深刻な脅威」であり、すべての国が「共通だが差異ある責任」の原則に基づき、気候変動に取り組む必要があると指摘。同時に、先進国に対して「歴史責任と経済力に照らして、温室効果ガス排出の大幅な削減を主導」するよう要求。途上国への技術移転、財源提供などをさらに進めるよう訴えました。

その思いは世界へ、COP13へ

地球温暖化対策の新たな枠組みづくりに向けたCOP13は12/3より、インドネシア・バリ島のヌサドゥアで180カ国以上が参加して開催されました。京都議定書の第1約束期間(08～12年)後の枠組みについて正式な交渉開始に合意し、09年の交渉完了までの行程表「バリ・ロードマップ」の骨格案を分科会の共同議長が初めて示し

ました。ロードマップ案は、京都議定書に定めのない13年以降の長期的な共同行動のため、条約の拡張や新たな枠組みづくりの作業をただちに始め、検討を重ねて「最初の公式会合を08年6月までに開く」と規定。また、前文で「最悪の被害を食い止める科学的証拠に対処し」との表現でロードマップの方向性を位置づけ、先進国で20年までに温室効果ガスを90年比で25～45%削減、全世界で今後10～15年のうちに排出量を減少に転じて50年に00年比で半減、との数値も示しました。

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が会議に提出した報告書は「今後20～30年の努力で、危険をどれだけ減らせるかが決まる」と結論づけました。



COP13会場に設置された温度計

トピック

温暖化は安全保障上最大の脅威

ワシントンの2つの有力シンクタンクが11/5報告書を発表。地球規模の気候変動にこのまま対処しないと、米国が現在直面する「どのような問題よりも大きな課題を外交および安全保障に突きつけることになる」と警告。

寄付金付年賀はがきで温暖化ガス削減

日本郵政の「カーボンオフセット年賀」。販売価格は55円。うち5円が風力発電など地球温暖化防止に取り組む環境事業への寄付金となる。日本郵政が同額を上乗せし、環境団体を通じてCO2の排出権を購入し政府に無償譲渡。

情報リンク

「影響の時代：地球規模の気候変動が外交政策と国家安全保障に及ぼす影響」

<http://www.news.janjan.jp/world/0711/07111115482/1.php>

トピック「温暖化は安全保障上の最大の脅威」でご紹介した報告書の詳細

お知らせ バックナンバーをプレゼント

多数のお申込みありがとうございます。引き続き『地球暮らし』全バックナンバープレゼント実施中です。右記のEメールかFAXまでお申込み下さい。

編集後記 少しは柔らかい話を…(^^)

スキーノルディック複合の荻原健司さんはこの度日本オリンピック委員会(JOC)の環境委員に就任。「スキーというスポーツの危機」を訴えかけています。今月は始終カタいお話になってしまい申し訳ございません。それだけ、重要なイベントが相次いだためということで…。

このニュースレターに対するご意見、ご要望、投稿をお待ちしております。

Eメール: info@satsumahome.com

FAX : 06 - 6855 - 7700

郵便: 〒560-0053 豊中市向ヶ丘3-11-47

ステップビル3F (株)さつまホーム企画室

さつまホームは地球温暖化防止に取り組んでいます